

地域と共に歩む

富山商工会議所議員
インタビュ⑩

幅広く、深く、暮らしと産業を支え 富山の魅力を広める“応援団”に

富山商工会議所 常議員

富山第一銀行

代表取締役頭取 **野村 充**

頭取就任時はどうでしたか？

富山県を拠点とする地方銀行として、80年以上にわたり地域の暮らしと産業を支え続ける株式会社富山第一銀行。県内3つの無尽会社が統合した富山合同無尽株式会社として1944年に設立され、現在はTOYAMAキラリに本店を置いています。地域課題に伴走するコンサルティング業務の幅を広げ、サステナビリティの推進、環境問題にも積極的に取り組むほか、今年63回を数えた「小学生図画コンクール」など、富山の未来を担う子どもたちへの支援にも力を入れています。野村充頭取に、地元銀行の立場から富山への想いを伺いました。

「2019年に日本銀行を退職し、富山第一銀行に入行。2021年に頭取に就任しました。就任前に当行の課題を見つめる充電期間を経て、現状を踏まえて責任を担えたことは幸いでした。当時は超低金利とコロナ禍が重なり、最終利益も20億円台にまで落ち込む厳しい状況。長期的な課題も積み残されていたが、円安や株価上昇など経済金融情勢の変化に加え、有価証券運用の成果もあり、業績は急速に改善。もの言う株主との対話を契機に、上場企業としての意識とガバナンス改

革も進展しました。時代の節目に恵まれ、大きく転換できた4年間だったと感じています。

富山は初めてでしたが、魚好きなので食が美味しく、まちはコンパクトで便利。来てよかったと実感しています」

今後、富山のために何がしたいですか？

「地元銀行として、より幅広く、より深く事業者の支援や個人の資産形成に関わり、お役に立てる存在でありたいと考えています。勤勉な県民性、高い生産性、持ち家率の高さなど、富山には発展の力が備わっています。そこに、金融機関として良いサービスの選択肢を提供することが、われわれの役割であると考えています。

個人としては、富山応援団々でありたいですね。日銀時代の仲間や友人らが富山を訪れる際は、アルペンルート絶景や季節の味覚を案内しながら、富山の魅力を自分も一緒に楽しんでいます。季節によって様々な魅力があり、また、楽しめる場所も沢山あることを実感し、何度も訪れてもらえる方もいて自分もうれしく思っています」

会員の方々へメッセージをお願いします。

「私が部会長を務める富山商工会議所の金融・情報文化部会では、富山の食や文化、ものづくりを探索する交流会を実施しています。支社長・支店長の参加も多く、すてきな場所を巡

るなかで、参加者が、観光大使々となつて、本社から訪ねてくる役員や友人の方々に、富山の魅力を広めてくださることを期待しています。私自身もまだ知らない魅力が多いと感じています。おすすめがあれば、ぜひお声かけください。その土地に入り込もうという気持ち強いほど、その地域を好きになるーそんな実感を、多くの方と分かち合えたらと思っています」

取材を終えて

野村頭取は、若手行員によく「楽しんで仕事をする」ことについて話そうです。「悩みや課題にあれこれ向き合うなかで、ふっと突破口が見える瞬間の喜びこそが、楽しんで仕事をするることにつながる。仕事も生活の大切な一部として前向きに取り組むことが、人生全体を豊かにする」と語ります。「一つのことには安住せず、常に新しいことに目を向けて、次から次へと進んできた」という頭取の姿勢に倣い、当所も挑戦を重ねていきます。



▲当所の合同部会視察会で参加者と交流する野村頭取。こうした場を通じて富山の新たな魅力を実感されることも多く、県外から訪れる知人・友人を案内する際の参考にもされているそうです

富山第一銀行

設立 1944年10月1日
富山市西町5番1号

